

# ふるさと北海道、

## 浦幌町の発展を祈念して

東京十勝浦幌会顧問 鉢木 和 二



浦幌町は、十勝支庁の一番東にあり、太平洋に面し、十勝川河口にも面しています。

町の歴史は、今年で113年目になり、平成20年、開町100周年記念式典を行いました。

町は、農業、酪農、漁業、林業、そしてそれらの加工業が中心です。かつては、太平洋炭鉱もありました。最近では、温泉（留真温泉）も開発され、ここはアルカリ性が強く、肌がつるつるになり、特に女性は、一度入ったら止められないほど、印象に残ると言われます。

私達の東京十勝浦幌会は、平成元年に設立され、年に一度の総会・懇親会、そして旅行会、ゴルフ会等を作り、仲間の絆はそれなりに強まっていると思います。総会に際しては、地元浦幌町から、町長、議長、商工会

長、農協長、漁協長等に「ご出席いただき、ふるさとの動きを直接お聞きすることができ、大変嬉しいです。」

さらに、これからは、北海道ふるさと会連合会に入会させていただいたこともあり、他地域との情報交換は勿論、年一回開催されている、東京での産直フェアにも参加させていただき、ふるさとの物産を、東京を中心とする関東全体の方々にも味わっていただければと思います。子供の頃、ふるさとで食べたトウモロコシ、ジャガイモ、カボチャ、それにサケ、毛ガニ、シシャモの味が未だに忘れられません。東京の人達にも「食べていただきたい」と思いますが、さらに多くの人達に味わっていただければと思います。

北海道ふるさと会連合会、ふるさと北海道、浦幌町の益々の発展を祈念申し上げます。

## 北海道伊達の始まり

東京伊達会 高橋 郁夫



北海道になぜ東北の雄藩であった伊達という名を冠する地域があるのかという質問を頂くが、明治維新に至る戊辰の役の結果に外ならない。そこに定住する迄に受けた先人達の辛酸をさわめた艱難辛苦の道のであったことを父祖より言い伝えられている。まず戊辰の役をどう切り抜けたのか、戊辰の役で朝廷からお沙汰があり、「薩長等の征討軍を援助せよ」、加えて「大逆会津を征討せよ」というものである。仙台藩一門は王政復古なるこの時期、戦乱にはしたくないという建白の使

者を立てて工作もしたが、受け入れられず、逆に勅命を無視したということとで朝廷より使節団を送り込まれる。使節団は横柄で、市中示威し、藩重臣を面罵し会津征討を督促して回る。会津からの降伏依頼による申し入れにも「嘆願は聞けぬ早々に討ち入るべし」との厳命に藩士等は激昂し使節の参謀世良修蔵を斬首してしまう。奥羽越前藩同盟は立ち上がり、白河口に対陣するが、ここで藩主の伊達邦成公は百姓を頼み重囲の中、決死の行動をもって官軍の肥後細川藩と連絡をとり、大義

## 町の話題あれこれ

東京常呂会 佐藤 和美



一、広報「まちのかぜ」からは、集まる！楽しむ！飲む！食べる！地域の福祉を考える「ふれあいパーティー」の話題があり、地域の福祉力を高めるため多くの人たちと交流を深めるとし、このパーティーで得た収益は社会福祉事業を推進するための活動資金として活用させていただきます、としている。

「交流のためのチケットは一枚1500円」

二、「ところ通信・七月号」からは、「美しい自然を守る」第十四サロマ湖「ゴミ0運動」とし、6月16日に、サロマ湖0運動が行われました。良い天気にもぐまれて、参加者は汗を拭いながら湖沿いにたまったゴミを一掃。サロマ湖の環境保全に貢献したと、記載されていた。

三、もう一つの話題は、常呂高校生が「職場体験学習」を体験した模様記載してあつ

と藩の存亡をかけた帰順の意を訴え、それが真意と認められ兵乱は終末となる。

邦成公のそれまでの禄高は2万4350石で、亘理・宇多の領地を擁していたが没収され、たった58石5斗に減じられ、家臣の扶養は断ち切られた。ここで浮上したのが蝦夷地への転住であった。藩主も家臣も財産は蕩尽に帰していたが、常磐新九郎、後の田村顕允筆頭家老が「我に1362戸、7850余人という特有の資産がある」と説き伏せ、兵農一如北門の警備として帯刀を維持し、方や荒蕪を起こして皇国の版図を開き忠誠心を披瀝し薩長に対する汚名をそそぐ気概をたぎらしたのである。

かくして家老新九郎は上京し自費移住の願意陳情に及ぶ。時恰も新政府は蝦夷地での口

## 雄規 安井 規雄

(東京東神楽会 会長)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-8-13  
虎ノ門上野ビル3階  
安井・好川・波辺法律事務所  
TEL 03(3580)1811(代)  
FAX 03(3580)1812

シア南下に備えること急を要し、諸藩に呼びかけるが数藩しか応じていなかったことも幸いし邦成公の願意は願ってもない申し出と悦ばれ、参朝の上「開拓志願の趣神妙の至りに思召され北海道開拓御用仰せ附られ候」と「胆振国の内右珠郡 右一郡其方支配に仰せ付られ候事 明治二年八月 太政官」これが伊達支配の始まりとなるお墨付きである。